Web 版

社教ニュース ときたまご

令和８年６月１１日（第１号）　山形市教育委員会社会教育青少年課

「社教ニュースときたまご」は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に加え、高校生や成人を対象とした事業や公民館事業など、より幅広く社会教育に関する情報をお伝えしています。「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の更なる推進にお役立ていただければ幸いです。

「関係者版」は先生方と学校運営協議会委員のみなさん、地域学校協働活動推進員、公民館、コミュニティセンターにお送りします。また、山形市ホームページに「Web 版」を掲載します。

令和８年度の主な事業

・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
　→研修会、取材、情報交換、地域学校協働活動関係団体等支援
・放課後子ども教室
　→大曽根小放課後子ども教室、公民館における放課後子ども教室
・若者支援
　→まちなかサードプレイスビッキの会、サードプレイス Jr.
・家庭教育支援
　→研修会
・社会教育関係団体、ボランティア活動団体等への支援

学校を核とした地域づくり

地域学校協働活動は「地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」です。

５月３０日（土）学校を核とした地域づくり研修会を開催しました。大曽根地区の放課後子ども教室「そねっこクラブ」から寒河江郁子氏、山寺を愛する教師の会から田中克氏サードプレイス村から山形市立第三中学校の鈴木うたさんが事例提供者として参加し、それぞれの魅力的な取り組みについて御紹介いただきました。また、社会教育士の小林星太氏にファシリテーターとして参加していただき、事例発表者と他の参加者をつなぐようなパネルディスカッションの場をつくっていただきました。

【参加者より】
・いずれの事例もそれぞれの熱意が伝わってきて、実践の価値や意義を感じることができた。それぞれの思い、成長の実感など、生の声を聞くことができた。
・初めて参加させていただき、貴重なお話をお聞きでき、大きな学びになりました。ありがとうございました。“つながる”ことの大切さ、そして“つながる”ことの難しさを実感しながら日々生活している中で、子育て世代として、母として、保護者として、自分でできることを実行していきたいと改めて思いました。
・第三中の鈴木さんは、地域に関するボランティア活動に参加する中で、自分たちの成長や課題を実感しながら成長していると感じました。地域づくりのためもありますが、かかわった人々のやりがいや成長につながることは意味があることで、持続させるためのモチベーションでもあると思います。「この活動の物語を紡いでいきたい」という言葉が印象的でした。

まちなかサードプレイス「ビッキの会」 ～どんどんやきをつくろう～

令和８年度から「ビッキの会」改め、「まちなかサードプレイスビッキの会」とし、大学生だけで構成していた枠を高校生及び大学生、同世代の青年と広げました。現在は大学生８名が加入しており、６日（土）には小学生対象に「どんどんやきを作ろう」という企画を実施しました。市内からたくさんの小学生が参加し、楽しく安全に活動しました。自分で作ったどんどん焼きの味は格別だったようです。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。